

# 会 議 録

## 1 会議名

平成28年度第3回上越市食育推進会議

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 第3次上越市食育推進計画について（公開）
- (2) 上越市食育推進実施計画（アクションプラン）について（公開）
- (3) 平成28年度食育推進関連事業の進捗状況について（公開）
- (4) 平成29年度食育推進関連事業の概要について（公開）

## 3 開催日時

平成29年2月24日（金）午後1時30分から

## 4 開催場所

上越文化会館 大会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：高橋慶一、野口孝則、井上智代、品田やよい、倉石幸恵、小林毅夫、井上智子、岩井文弘、見波紀子、平澤栄一、津島けい子、山岸マサ子、武田昌子、牛木秀人（八木智学代理）、桃澤靖、澤田靖（高橋正弘代理）
- ・ 事務局：農村振興課古澤課長、栗和田副課長（食育推進担当）、健康づくり推進課田中副課長（食育推進担当）、保育課堀川副課長（食育推進担当）、農政課桐木副課長（食育推進担当）、教育総務課本間副課長（食育推進担当）、学校教育課手塚副課長（食育推進担当）、社会教育課小林副課長（食育推進担当）、農村振興課伊藤係長・内山主任

## 8 発言の内容

農村振興課古澤課長：ただ今から、平成28年度第3回上越市食育推進会議を開催いたします。

本日の会議ですが、荒木委員、松田委員、山崎委員、田村委員、尾崎委員、笹川委員から事前に欠席の連絡をいただいております。

お手元の「上越市食育推進会議規則」の第2条第2項の規定にあります委員の半数以上が出席しておりますので、会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。

まず、議事に入ります前に、会議資料の確認をさせていただきます。

（配布資料確認）

本日の会議の終了時刻につきましては、午後3時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして会長からご挨拶を頂戴したいと思います。高橋会長、お願いいたします。

高橋会長 : (高橋会長、あいさつ)

農村振興課古澤課長 : ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。これより先は会議規則第 2 条第 1 項の規定によりまして、会長が議長を務めることとなっております。高橋会長、お願いいたします。

高橋会長 : 今ほど事務局から話がありましたとおり、しばらくの間、議事を進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

お手元にあります次第に議題(1)、(2)、(3)、(4)とありますが、これに従いまして順に進めていきたいと思えます。

ではまず、最初に議題(1)第3次上越市食育推進計画について事務局からご説明をよろしくお願い致します。

農村振興課栗和田副課長 : (議題の(1)第3次上越食育推進計画について説明)

高橋会長 : ありがとうございます。

ただ今、説明がありました第3次上越市食育推進計画につきまして、ご意見、ご質問等がありますでしょうか。

品田委員 : 感想でもよろしいでしょうか。

パブリックコメント等での意見と対応を拝見させていただき、本当に細かいところまで、参画と手伝いの違いだとか、驚きました。

そして、こんなにたくさんの意見が寄せられている事は、この策定に非常に興味関心を持たれている方が大勢いらした、本当に良い事だと感心して、今日ここに参加させていただいたのですが、先ほどのお話で、おひとり1団体という事を伺い驚きました。

おひとりであり1団体であるにしても、非常に関心を持たれている方がいらっしゃるという事については、大事な事だなど、また、自分の立場からも感じたので発表させていただきました。

高橋会長 : ありがとうございます。

他にご意見ありませんか。

平澤委員 : 食をめぐる現状と課題という中で、先ほど TPP の問題が触れられておりましたけれども、現実には私は農村に住んでいるのですが、農村が様変わりしている状況があります。今まで集落の周りの畑をみなさんこぞって自家用野菜の生産場所としてやっておられたのですが、最近はだんだん荒れてきて、1年放っておくと雑木も大木になってきて、とても畑に復帰出来ない状況がものすごく広がっています。水田も平らな所は、大規模経営されているのですが、山間部へと一步踏み込むと荒れてきていると話を聞いております。みんな今の所、食べ物はあるので危機感はもちろん無いですし、さもあろうとみなさん通りすぎていると思うのですが、この事がずっと進んで行きますと、作る人が極端に減る時代が来るのではないかなと懸念いたします。そうやって来ているのに行政は全く知らん顔をしているのかという部分では、こういう委員会で訴え

ていかなくはない部分ではないかと思ひまして発言させていただくのですが、みなさん現金収入を得るために、とても合わない家庭菜園には振り向いてられないのが、実情だと思います。その辺を全く触れないで良いのか、全部輸入に頼って行く方向で良いのかと、私は生産者の1人として言わせていただきたい。全く誰も明日の事など考えていない時代になってきているので、自分たちの身の回りの子どもたち、孫たちがどんな食生活に入ってくるのだろうかと思ひます。自分たちの身の回りの農地を利用して、そこに住んでいる者は四里以内、身土不二という言葉があるのですが、やはり地元の物を自分たちで食べようという運動は、すごく大事なのではないかという気がしまして提案させていただきました。

高橋会長

：ありがとうございました。

他にいかかでしょうか。

岩井委員

：いろんな物を見させていただいて、今何が問題なのかを考えた時に、孤食と言いますか、1人で食事をする傾向がだんだん増えてきているのがよく分かりました。お年寄り、家族構成の点で一人暮らししている人は必然的に1人で食事をするのは仕方がないので、そういう家庭が増えているので孤食が増えている事は分ります。ところが子どもの実態を見ましても、最近は親が共働きで帰って来る時間がまちまちである、お母さんも夜7時、8時まで働く場合もあると思うのですが、子どもが家族と一緒に食事をしないで、1人でポツンと食事をする傾向が随分増えてきているように思われます。子どももそうなのですが、かなり年齢が高くなって連れ合いが死んでしまって、1人で食事をせざるを得ない人が、たくさん増えてきますと、どんどん精神的に追い込まれて、長生き出来ない、生命を絶つような場合もあるかと思ひます。コミュニケーションがありませんので。そういう場合に、意見の中にあつたのですが、三重県では高校生レストランで有名な試みがなされていますね。どの程度、一人暮らしの方がいて困っている人がいるのか分からないのですが、もしそういう方がますます多くなるようでしたら、何か行政が先頭に立って、共食が出来るような場を設定したらどうかという意見に賛成です。例えば高田公園に新しい施設が建って、人が集まるようになる。そこに高校生レストラン、例えば北城高校の食物科の生徒、材料を提供する高田農業で生産した物。こういった物で食事を提供するような場を作れば良いのかなと思ひました。

高橋会長

：ありがとうございました。

他にご意見ないでしょうか。

では、時間も過ぎていきますので、ただ今ありましたご意見につきましては、事務局の方でよく検討の上、取り入れていただきたいと思ひます。

続きまして議題の(2)平成28年度食育推進関連事業の進捗状況につきましてご説明願ひします。

農村振興課栗和田副課長：（議題の（2）平成 28 年度食育推進関連事業の進捗状況について説明）

高橋会長：ありがとうございました。

ただ今の平成 28 年度食育推進関連事業の進捗状況につきまして、ご質問、ご意見ありますでしょうか。

野口委員：今、ご説明していただきましたものは大きく 2 つあったわけですね。第 2 次の目標に対しての評価、それと本年度の 1 年限りのアクションプランの進捗の報告。アクションプランの方が先にご説明いただきましたので、34 のうち成果不十分 6 と、それをまた細かくご説明いただきました内容も分かったのですが、例えば 1 人欠けているだけで三角が付いているくらい、かなり厳し目の評価をされた印象を受けました。その後の、第 2 次全体の、つまり 1 年だけではなく、その積み重ねである 5 年間の評価というところの矢印を見ますと矢印が下を向いている。当初の 5 年前の目標に対して、この 5 年間に於いて毎年度毎年度のアクションプランの実施の積み重ねである結果は矢印のマイナスが 8。こちらの方がマイナスが大きくなって悪化が増えている現状です。毎年度毎年度において、例えば今年度の 28 年度のアクションプランで×はひとつもなく、厳し目の△がたった 6 個であったにもかかわらず、5 年間のトータルで見ると、悪化した項目が 8 項目。このような現状はどのように考えたら良いのか。つまり毎年度毎年度の所と、全体 5 年の所では、私としては、食育推進 5 年の方が大きな結果だと思うのですが、そのために毎年度アクションプランで修正及び改善をしていくことの積み重ねで、5 年が良くなると思うのですが、今後次の第 3 次の 5 年の事を考えますと、策定時よりも目標値に近づく為のアクションプランでありたいと思いますので、今回ぜひとも事務局の方から、ご感想と言いますか、状況の説明をもう少し詳しくいただきたいと思います。第 2 次の悪化が 8 項目あった所に関して、今年度アクションプランでは×になっていない。△が 6 つしかないのに、やはり 5 年になるとかなり悪化の項目が多いんだというこの辺に関して、ご感想、ご意見をいただきたい。

農村振興課栗和田副課長：貴重なご意見ありがとうございました。

単年度で見ますと、事業に取り組んだが成果が不十分だったのが 6 項目。それに対して 5 年間のトータルで、策定時より下回っているのが 8 項目あったことはアクションプランの評価の仕方が影響したものと思います。全体の 5 年間トータルの目標と、単年度の評価の仕方を次期の第 3 次のアクションプランの中では考えていかななくてはならないと思っております。

第 2 次計画の目標の項目と、アクションプランの実際にやる計画では、全てがリンクしていないのもあるので、後ほど第 3 次計画を説明させていただきますが、第 3 次計画におきましては、きちんと体系図に合わせた形で作成していますので、改善を図っております。指標項目の目標とアクションプランがリンクするような形で毎年度見直しをする中で、目

標を出来るだけ計画策定時の数字から目標値に近づけて行けるよう、毎年度少しずつでも上げていけるよう取り組んでまいりたいと考えております。ご理解よろしく申し上げます。

高橋会長 : これについては質疑を終了させていただきます。

続きまして議題(3) 上越市食育推進実施計画(アクションプラン)につきまして説明をお願いします。

農村振興課栗和田副課長:(議題(3) 上越市食育推進実施計画(アクションプラン)について説明)

高橋会長 : ありがとうございます。

ただ今、説明いただきました、上越市食育推進実施計画(アクションプラン)につきまして、ご意見、ご質問いかがでしょうか。

野口委員 : 先ほどの質問と関連した所で、今回のアクションプランに関しては、以前の物と比べますと、大変分かりやすくなっていて、3次の計画があり、それに基づく下位項目と言いますか具体例が出され、誰が主となり、誰に対して行うかという事の明記もされました。すごく分かりやすくなったと思っています。ありがとうございます。

今見せていただいて、説明いただいた中でやはり気になる所が数点ありました。最終的な5年後の数値目標があり、その目標に向けて毎年数値を少しずつ変化させて行く。例えば12ページ中ほど(3)の③-①若い世代や、全世代に対しての%数字が毎年少しずつ動いています。このように毎年何かアクションを起こしながら、少しずつ目標に近づいて行くという姿が、分かりやすく示されているものと思います。一方で一番下なのですが、70.1%、71.3%、72.5、73.7、たぶん均等割りをしていたのかもしれないのですが、目標としてのアクションプランの数字も先ほどの(3)の③-①のような、切りの良い数字、せめて整数ぐらいの方が、目標として今年は何%目指すって言った時に、73.何%を目指すという言い方がなかなか難しいかな、もう少しクリアにさせた方が良いのではないかと思います。そうすると全体でそうなっている所の数字と、なっていない所の数字でいくつか混在している形かなと思いますので、その辺りは事務局の方で程よく調整していただいても良いのではないかと思います。

二点目はそう考えた時に、18ページの食育フォーラムです。先ほど第2次の平成28年度の反省点の中にもありました、1,500人を目指す、そして来年にはまた1,500人来て欲しいのだというお言葉もありました。しかしこの計画を見ますと18ページには、1,420人で良い事になってしまっています。5年かけて1,500人を目指すと言うよりは、実は27年度には1,500人を達成している現実がありますので、28年度はいろんな理由もあって、1,500人には達しなかったという先ほどの反省点からしますと、29年度において、やはり平成27年度に達成出来ている1,500人をこの段階で目指すべきではないか、と先ほどの流れからいたしまして、そう思っていたのですが、よくよく見てみますと、5年かけて数十人ずつ上

げていくという形になっていますので、ここはもう 29 年度 1,500 人という数字を出されたらいかがかなと思いました。その後、1,500 人を越えた目標がもしかしたら、アクションプランにおいては修正されていくかもしれません。第 3 次の計画は 5 年間は変わりませんが、1 年目から毎年度 5 年連続で 1,500 人を越えることが出来ていたというのは、それはそれで素晴らしい事だと思いますので、5 年後に目指姿だけではなく、可能性があるのであれば早めに 1,500 人を目指すという事をご提案されても良いのではないかと思います。

あと一点は、ちょっとお伺いしたい所です。食品ロス、先ほどもご説明いただきました 21 ページになりますが、まさに新規事業項目、大変全国的にも、いろんな運動が行われている食品ロスの事なのですが、食品ロス削減を目指した子どもたちや大人、みんなが食べ物を大切にすることをもっともっとやるべきなのですが、実際に食品のロスがどれ位あるかという、実量というものは、把握は可能なのでしょうか。つまり食品ロス削減の為の意識、または行動、これをアンケートで伺う事は可能だと思うのですが、例えば上越市で何らかの指標において、食品のロスがどの程度かという、もったいなさを目で見えて分かるものがどこかで確認出来るのかどうか。これは、私も分かりませんので、農村振興課さん辺りで、どこかで把握できている数字があるかどうかというのを伺いたいです。これは質問です。以上です。

農村振興課栗和田副課長：ご意見ありがとうございました。

資料の数値目標に小数点が付いているものが、いくつかございます。ちょっと分かりづらいというご意見の通りだと思いますので、これについては事務局の方で、整数値の方に合わせる方向で調整したいと思いますが、あくまで 3 次計画の数値目標がございますので、これに合うような形で、整数値で年々上げていくもの、それとも最初から上げて維持していくもの、アクションプランなのでもう少し目標を上げて良いものもあるかと思っておりますので、整理した中で分かりやすい数字や整数値に合わせようと思っております。

食育フォーラムにつきましては、先ほど説明させていただいた中で、27 年度に 1,500 人を達成して、今年度はいろいろな事由がございまして、若干減ったわけですが、やはり 1,500 人というのがひとつの目標でもございますので、29 年度から 1,500 人を維持、または増やしていくというような形での目標を設定したいと考えています。

食品ロスの関係なのですが、市の方でどれくらいのロスがあるかは抑えておりません。ただ、農林水産省で平成 25 年に推計値を出してございます。ここから逆算しますと、現在、上越市でどれくらい食品ロスがあるかを数値化しております。これは市のホームページの方にも載せていますが、市民お一人おひとりが、毎日おにぎり 1 個くらいを捨てている、という推計が出てございます。あくまで国の数値からの推計でございますので、実質として調べたわけではないですが、推計として毎日おにぎり

り 1 個くらいの物は捨てているということです。このことは、今年度作成しました、小学校 5 年生向けのクリアファイルにも書かせていただきましたが、毎日おにぎり 1 個を捨てているんだよというような分かりやすい表現もさせてもらう中で、ホームページ等でも啓発をしております。

食品ロスの啓発を図るに当たっては、分かりやすい形で、市民の皆様にお伝えし、もったいないという心を持っていただいて、食品ロスを減らしていきたいと思っておりますし、国からきちっとした統計が出ておりますので、国の統計についてもお出しする中で、啓発を図って行きたいと考えております。以上です。

高橋会長  
武田委員

：ありがとうございます。

：食育フォーラム、実際に私共、食生活改善推進員が携わっておりまして、毎年毎年好評なんです。ただ、今年市民プラザの駐車場が少なくなっていて、今まで使った広い所に止められるものだとみなさん思っちゃって、駐車場がやっぱり大事ですよ。

それ考えていただければ、1,500 人なんて簡単にクリアするかと思います。実際に携わって、本当に好評なんですよ。以上です。

高橋会長

：ありがとうございました。

他にもうひとつ、いかがでしょうか。では、無いようですので、次に移りたいと思います。

続きまして、議題の(4)平成 29 年度食育推進関連事業の概要について事務局からの説明をお願いします。

農村振興課栗和田副課長：(議題(4)平成 29 年度食育推進関連事業の概要、農村振興課分について説明)

健康づくり推進課田中副課長：(健康づくり推進課分について説明)

保育課堀川副課長：(保育課分について説明)

農政課桐木副課長：(農政課分について説明)

教育総務課本間副課長：(教育総務課分について説明)

学校教育課手塚副課長：(学校教育課分について説明)

社会教育課小林副課長：(社会教育課分について説明)

高橋会長：ありがとうございました。

ただ今の、平成 29 年度食育推進関連事業の概要について。これに関しましてご質問、ご意見はおありでしょうか。

よろしいですか。では、特にご意見も無いようですので、この辺で質疑を終了したいと思います。

では、予定された議題等は全て終了しましたので、進行役を事務局にお返しします。よろしくをお願いします。

農村振興課古澤課長：高橋会長ありがとうございました。

それでは次にその他でございますが、事務局から連絡事項があります。お願いします。

農村振興課伊藤係長：本日議論いただきました、第 3 次の食育推進計画並びにアクションプランにつきましては、会長とご相談をさせていただきながら、本日

の意見を反映、修正をさせていただき、成案とさせていただきます。その後、市の内部手続を経まして、3月中に委員のみなさまに、完成版を方を郵送させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。またこの、第3次の食育推進計画につきましては、3月市議会の定例会の文教経済常任委員会におきまして議会報告をさせていただきます。また、パブリックコメントの結果公表を市民のみなさまに、3月の下旬からおよそ1か月くらいを予定しておりますので、ご承知おきをいただきたいと思います。連絡事項は以上です。

農村振興課古澤課長：その他といたしまして、みなさんの方からございませんでしょうか。

野口委員：今日の1番初めの会長のご挨拶の中にもあり、そしてたぶん今日出席されておられる委員のみなさまの、頭の中のどこかにあるのだろうなど、子どもの貧困対策と言いますか、それが子どもだけではなく、いわば経済的な状況に応じた食の提供はどうあるべきという事なのですが、参考までに伺っておきたいと思います。国は法律を作り、そして各都道府県において計画を立てているわけですが、上越市においては、子どもに限らず、貧困というものに対して、食育は食の部分なのですが、食に限らず、対策というのが動いて行かなければいけない事なのだろうなと思っています。学校においても上越教育大学でも、貧困というキーワードを入れた授業であったり、または、大学院生が研究テーマとして選ぶ学生も増えてきておきまして、社会問題的にやはりトピックなのだろうなと感じています。上越市においては、食育に限らずのところ構いませんので、何か今、動きと言いますか、上越市は貧困対策に関してどんな動きがあるのかとか、参考までにお伺い出来たらなと思いました。もしかしたら、農村振興課ではなく、その後ろのどこかの課が、中心となって動いておられるのかも知れないですが情報ありますでしょうか。

学校教育課手塚副課長：私共は、教育分野におきまして、貧困対策という事で若干取組をご報告させていただきたいと思います。学校現場におきましても、教育機会均等という事で私共、就学支援を行っております。具体例を申し上げますと、入学にかかるランドセルとか、カバンとかを買うお金、修学旅行のお金であったり、PTA会費等の学校にかかるお金につきまして、いわゆる生活保護世帯であったり、生活保護世帯に準ずるような、生活保護世帯の1.3倍くらいの所得層になるような世帯の方を対象に就学支援というものを行っております。加えて、いわゆる貧困と言いましょか、経済的に苦しいお家の方のご子息の高校、大学への進学に対するご支援という事で、上越市の奨学金制度というものも設けております。貧困というものにつきましては、非常に根深い所もございまして、そういう所が一因となるようないじめなどもございまして、学校現場、教育委員会におきましても、上越安心サポートチームというような専門のチームもありますし、市におきましては、福祉部門については、すこやかな暮らし支援室がございまして、学校と家庭、そういうところを含む、

間にいらっしゃる方についても、教育委員会並びに市の福祉部門と連携しながらご支援しているという事であります。

農村振興課古澤課長：他によろしいでしょうか。

高橋会長：食育推進会議という事で、食べ物中心の話をすると思うのですが、古典的な貧困対策、生活支援・生活相談もあると思うのですが、アメリカなどでフードスタンプとあって、貧困層に食券・食品が手に入る仕組みとか、地域社会が相互扶助支援として、食事を配付するだとか、食事をする機会を提供する、料理をして食べさせるだとかされていると思うのですが、日本の地域と比べると対応が細かいのかなど。給食だけが、まともに食べる食事だというような貧困家庭の子供をニュースで聞いた事がありますが、そういった趣旨の事をお聞きになりたかったのではないかなと思います。

農村振興課古澤課長：他にありませんでしょうか。

それでは、長時間に渡りまして、みなさんから貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

以上をもちまして「平成 28 年度 第 3 回上越市食育推進会議」を終了いたします。

## 9 問合せ先

農林水産部農村振興課

TEL：025-526-5111（内線1276）

E-mail：nousonshinkou@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料も合わせてご覧ください。